

入選

恩送り

福井県 高椋小学校 6年 坪田 萩圭

私にとってとてもうれしくて、大切に、いつまでも忘れられないある親切をしてくれた人がいる。

今年の冬は、記録的な大雪となった。積雪は約 130 センチとなり、昭和 56 年の豪雪以来 37 年ぶり。私の家のまわりの道も雪でおおわれ、人が歩ける道をつくるのがやっとだった。家の前の道路には、なかなか除雪車がこなくて、近所の人たちと協力して雪かきをした。

車が走れるようになってからも道はガタガタで、いろんところで雪にタイヤがはまっている車をたくさん見た。でも、その車のまわりにはその人を助けようとスコップで雪をよける人が何人もいた。私のまわりには、こんなに助け合いの気持ちを持ったやさしい人がいるのだと、心があたたかくなった。

大雪で学校が休校だった間、私は毎日雪かきをしていた。でも、ある日私は手袋を雪の中に落としてしまった。しばらく家のあたりを探していたけれど見つからなかった。そのとき、通りかかった知らないおばさんが、

「どうしたの？」

と声をかけてくれた。私は手袋をなくしたことを話した。

「いっしょに探してあげる。」

とおばさんが言ってくれた。その言葉がとてもうれしかった。おばさんの前にも近所の人が声をかけてくれたけど、みんな「がんばれ」と言って、帰ってしまっていたからだ。でも、おばさんといくら探しても手袋は見つからなかった。日が暮れてきたので、おばさんにお礼をいい、その日はそれ以上探すのをやめた。

次の日も、朝から約一時間ほど雪かきをしながら探した。でもやっぱり見つからなかった。もう見つからないと思い、私は探すのをあきらめた。家の中で暖まっていると、インターホンが鳴った。玄関には、きのういっしょに探してくれたおばさんがいた。おばさんの手には、私が探していた手袋があった。おばさんは手袋が気になり、雪が積もっている歩道を探してくれたのだという。

きのう初めて会った知らないおばさんが、私にこんなに親切をしてくれたことがすごくうれしかった。私はそのとき思った。私にもできる親切はたくさんある。小さなことでもすすんで親切をしていこう。人の役に立つ人間になろう。

私は最近「恩送り」という言葉を知った。「恩返し」ではなく「恩送り」だ。恩を受けたとしても直接その人に返すのではなく、ちがう人に親切をし、恩を送るという意味である。私はその言葉を聞いたときすぐに、手袋を探してくれたおばさんのことが頭にうかんだ。私は一生その人に恩返しすることはできないと思う。けれど私は、あのおばさんから受けた恩を忘れず、人のためになる親切をして、たくさんの人に恩を送り続けたいと思う。